

# わだいの特選 カメラルポ

## 山 滝ノ入ローズガーデン『バラ祭り』 に抱かれた美しい庭園で



なりました。訪れた人びとは、長いバラのアーチのなかを歩いたり、変化に富んだ散策道を思い思いに歩きながら、バラの香りを楽しんだり、様々な種類の花をゆっくり眺めていました。

5月20日から31日にかけて、滝ノ入ローズガーデンで『バラ祭り』が開催されました。このバラ園は、平成12年に滝ノ入地域の活性化を目指した「もろもろ町おこし事業」の一環として、滝ノ入地区の人たちを中心にしたボランティアにより始められました。平成20年に現在の場所に移転し、今年、リニューアルオープンしました。

新しいバラ園は、周囲を山に囲まれ、自然と一体になった開放感のある美しい庭園です。園内には約250種1000本のバラが植えられ、バラ祭りのころに満開に



## 熱 スポーツ健康フェア2009 気あふれる初夏の一日

5月10日、毛呂山総合公園において『もろやまスポーツ健康フェア2009』が開催され、グラウンドゴルフ大会、ペタンク、健康体操など様々なイベントが開催されました。また今年もプロバスケットボールリーグbjリーグ所属の「埼玉ブロンコス」の選手による実技指導が行われました。ドリブルやパスのまわし方などプロ選手による密度の濃い指導に参加者は皆真剣な眼差しで取り組んでいました。



## さわ 新緑！ めじろウォーク わやかな緑を満喫

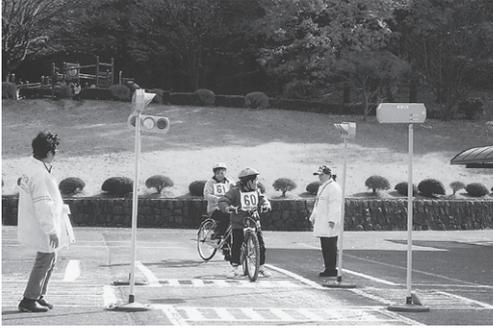


5月16日、『新緑！ めじろウォーク』が行われました。当日は、ウォーキングに慣れていない人も安心して参加できるように、ウォーキングサークル「サークルチャレンジ」の皆さんが参加者と一緒に歩きました。子どもから高齢者まで33人の参加者が、それぞれのペースで新緑の山歩きを楽しみ、<sup>しゅくぐ</sup>宿谷の滝を眺めたり、鎌北湖で昼食をとったりしながら、4時間あまりかけて、毛呂山町の里山を満喫しました。

## 呼びかけの輪を広げ悲劇を防ぐ 『毛呂山町交通安全母の会』

『交通安全母の会』は、母親の立場から交通安全を推進している。交通安全はまず家庭からはじまる。たとえば、子どもが出かける直前は「叱らない」「忘れ物がないか確認する」「遅刻しない」という3つのポイントがあるという。叱られればそれに気がとられ注意力が散漫になるし、忘れ物があったり時間がなかったりすると慌てて事故にあいやすい。ふだんの生活のなかで、安全意识を高めておくことが大切なのだ。

現在、『交通安全母の会』は、子どもだけでなく高齢者も含めて、事故や事件から守るため、警察と連携を図り啓発活動を行っている。定期的な街頭での呼びかけ、キャンペーンの展開、交通安全映画の上映のほか



「親と子の自転車教室」

実際に自転車を運転しながら、交通ルールを学びました。

か、高齢者の家を一軒一軒訪ね、反射材を配ったり、振り込め詐欺やひったくりの手法を説明し、注意を促している。一朝一夕に成果は出ず、活動は地道で、継続を求められる。しかし「高齢者の個別訪問も負担にならないように1時間以内で回れる範囲と決めていきますし、仲間と一緒にですから、張り合いがあって楽しいです」と、皆、朗らかな声でいう。

去年は初めて「親と子の自転車教室」を開催した。横断歩道や信号機を設置した広場で、実際に自転車の運転をしながら親子で自転車の交通安全ルールを学んだ。「開催にあたっては、西入間警察署、県、交通安全協会などに、協力していただきました。たとえばキーホルダーなどの参加賞を提供していただいたり、『交通安全体験車サイトくん』に来てもらったのりしました」。関係機関と連携をとり、大きなイベントを成功させた。参加者からは、「大変勉強になりました」という声が多数寄せられた。

「今までやっていなかったことに挑戦してやりとげると、喜びになり励みにもなります。今後は就学前の子どもに、紙芝居などを使って交通安全教室を開ければと思っています」。悲しい事故や事件などを一件でも減らしたい。その思いを胸に、仲間とともに、母の会は、日々、活動を続けている。

## 毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ196

### 毛呂山の昔話

～水辺の妖怪～

としやかに伝えられ、子どもは決して一人で川遊びをしてはならないと聞かされていた(岩井)。

#### 小豆洗い

①明治30年ごろのある人の話。父に「お遣いに行つて来い」と言われ、今宿(鳩山町)の小松屋に酒を買いに行つた帰り、橋場のそばの小川にさしかかると小豆を洗う音がした。怖くて逃げ帰つたという(苦林)。

②小豆洗いの話は明治・大正生まれの人は皆聞かされている。家の裏に毛呂本郷から沢田へ流れる沢堀という小川がある。戦前までは水もきれいでミヤコタナゴなどよく捕れたが、夕方からは橋の下に小豆洗いが出てひどい目にあうから行つてはいけないという習わしが古くからあった(岩井)。

河童や小豆洗いは妖怪のなかでも知名度が高く、近年の妖怪ブーム再来で現代の子供たちにも良く知られています。昔は河童や小豆洗いの現れそうな川辺や沼がそこかしこにあり、妖怪話は当時の子どもたちを水の事故から守る役目も果たすなど、生活に密着していました。しかし、日常的に水辺で遊ぶことの少なくなった現代の子どもたちにとって妖怪はあまり恐ろしくない遠い存在になったような気がします。

出典『毛呂山民俗誌1』  
毛呂山町教育委員会

【お詫びと訂正】先月号の歴史散歩の写真について「毛呂山中央テレビ共聴組合提供」と記載いたしました。正しくは「小山勇 様提供」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。